

四国CX (Civil Engineering Transformation)研究会主催講演会に出席

- 四国総合通信局 中澤局長は、令和7年1月10日(金)に愛媛大学（愛媛県松山市）で開催された、四国CX研究会主催の講演会に来賓として出席しました。
- 本講演会では、「シート型センサーシステムの研究開発と住民と育む地域インフラ維持管理への挑戦」と題して、大阪大学産業科学研究所の荒木准教授より講演がありました。
※連名(全員大阪大学所属): 荒木徹平准教授, 中村昌平副プロジェクトリーダー, 鶴田修一助教, 丸山武志特任教授, 関谷毅教授
- 今後、愛媛大学と大阪大学の連携が図られ、土砂崩れ対策等、四国における防災・減災に資するプロジェクトとして発展することが期待されます。

講演会の概要

- ▶ 本講演会は、愛媛大学、大阪大学、京都大学及び土木関係企業等、30名程度が参加（リモートを含む）。
- ▶ 冒頭、木下副会長（愛媛大学教授）より、本件は中澤局長より紹介があったものと言及。続いて、安原会長（京都大学教授）から趣旨説明があった。
- ▶ 続いて、中澤局長より、昨年7月での松山城の土砂崩れや大阪大学での勤務経験等を踏まえつつ、愛媛大学と大阪大学との連携が図られ、四国における防災・減災に発展することを期待する旨述べた。

- ▶ 荒木准教授より、主にウェアラブル向けに開発しているシート型センサシステムの研究開発の現状報告があった。また、同センサシステムを応用し、大阪大学先導的学際研究機構「住民と育む未来型知的インフラ創造部門」において、大阪府内等で実施されているインフラ構造物モニタリングプロジェクトについても講演があった（右図）。多くの質問があった他、活発な議論がなされた。



JST COI-NEXT HP より引用



＜挨拶をする中澤局長＞



＜会場の様子＞



＜挨拶される安原会長＞



＜講演される荒木准教授＞